

**紙つぶて**

富士山頂で空気中の浮遊粉じん（エアロゾル）を測定しているのと同じ装置が福島県飯館村でも動いています。二〇一一年の六月に被災地を訪ねた私の古い友人、田尾陽一さんと村の農業委員長、菅野宗夫さんが出会って始まったNPO「ふくしま再生の会」はボランティア中心の集まりです。田尾さんを代表として、飯館村の土壌や空間線量の測定、水田の除染法の試験などを進め、大学や研究所とも協力して復興を模索しています。

エアロゾルの測定を始めたのは、線量の高い作業環境の安全性を確かめたかったからです。マスクなしで呼吸しても大丈夫かという疑問から、一二年三月以来、国立環境研究所の助けを借りて測定しています。幸い、通常の状態なら空気中の放射性セシ

飯館村の空気

ウム濃度は自然放射能以下のレベルです。マスクなしで問題ないと分かりました。

しかし、汚染された森林や土壌から放射される空間線量はまだ高いレベルのところがあり外部被ばくは免れません。二百三十平方キの広い飯館村の七割以上は山林で、「日本で最も美しい村」の一つでしたが、南の方は汚染がひどく六千人の住民が村に戻れる見通しは立っていません。

いま、汚染の少ない佐須を中心に東大大学院の溝口勝教授が水田除染実験のために植えた稲が実りを見せています。荒れた農地ではほっとする光景です。イノシシやサ



ルの害に悩まされるこの活

動が明るい未来につながる

よつ祈ります。（土器屋

由紀子＝富士山測候所を活用する会理事）